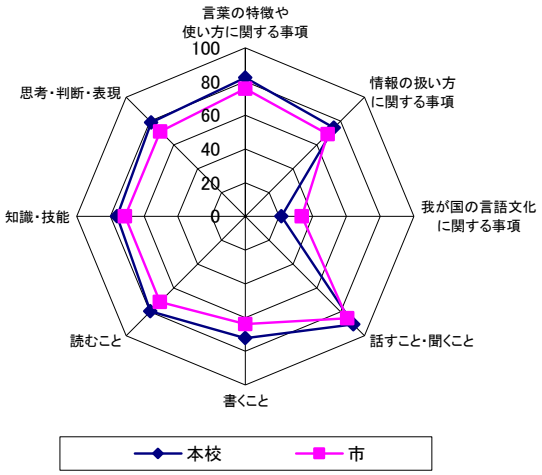
宇都宮市立泉が丘小学校 第６学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	82.3	75.8	77.5
	情報の扱い方に関する事項	74.4	69.1	67.0
	我が国の言語文化に関する事項	21.4	33.5	37.2
	話すこと・聞くこと	90.6	85.5	86.5
	書くこと	72.2	63.9	65.8
	読むこと	79.6	71.6	69.5
観点別	知識・技能	76.1	71.3	72.9
	思考・判断・表現	78.9	71.3	71.4

※参考値は，他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

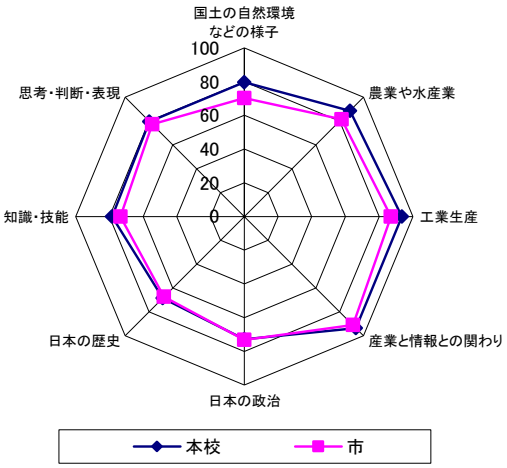
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	平均正答率は，82.3%で市の平均正答率より6.5ポイント上回っている。 ○「接続詞の理解」は市の平均より9.8ポイント高い。「敬語の理解」の正答率は市の平均より7.2ポイント高い。 ●漢字を書くことに関して，昨年度は全ての設問で正答率が90%を超えていたが，今年度は80%を下回っている設問もある。	漢字の読み書きの力をさらに伸ばすため，漢字ドリルの活用とともに生活の中で既習漢字を使用するよう意識付けを図っていく。また，漢字の字形を覚えるだけでなく，文の中での使い方や成り立ちについての理解も深められるよう，指導を工夫していく。 語彙を増やすために，読書や新聞を読む時間を引き続き意図的に取り入れていく。
情報の扱い方に関する事項	平均正答率は，74.4%で市の平均正答率より5.3ポイント上回っている。 ○「原因と結果など情報と情報との関係への理解」は，市の平均より5.3ポイント上回った。	文章の内容を整理し，要点を短い言葉でまとめたり，文章の核となるキーワードを抜き出したりと，的確に話題を捉えて表現する活動を取り入れていく。 調べたこと等をまとめる際に，「事実と意見」「原因と結果」など，情報と情報との関係を分析的に捉え，表現に生かしていく活動を設定する。
我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は，21.4%で市の平均正答率より12.1ポイント下回っている。	和語・漢語・外来語への理解を深め，言語文化への興味関心が高まるよう古文や漢文等様々な文章に触れる機会を確保するとともに，１人１台端末を利用し，楽しみながら語彙を増やすような指導を引き続き行う。 語句の由来や成り立ちを正確に理解し，語句に用いられている漢字の意味と結び付けながら考えられるよう，調べ学習や話合い活動を通した活動を設定する。
話すこと・聞くこと	平均正答率は，90.6%で市の平均正答率より5.1ポイント上回っている。 ○意図に応じて質問を工夫する設問に関しては，正答率94.0%で市の平均より4.7ポイント高い。 ○自分が聞こうとする意図に応じて話の内容を捉える設問に関しては，正答率77.8%で市の平均より8ポイント高い。	テーマを明確にしてインタビューする活動を設定し，話の内容を捉えたり，意図に応じて質問を工夫したりできるよう指導していく。 話し手と自分の考えを比較しながら聞くことを意識した学習活動を設定し，自他の考えの共通点や相違点を区別したり，整理・比較したりすることで，自分の考えを的確にまとめる力を伸ばすようにする。
書くこと	平均正答率は，72.2%で市の平均正答率よりも8.3ポイント上回っている。 ○自分の意見とその理由を明確にして書く設問では，正答率91.5%で市の平均より6.9ポイント高い。 ○●複数の話をもとに決められた字数で文章を書く設問では，市の平均より4.5ポイント高いが，正答率52.1%とやや低い。	国語科だけでなく他教科においても，学んだことや自分の考えを文章で書く活動を取り入れることで，書くことに慣れるようにしていく。また，書いた文章を読み直して加除修正したり，児童同士で互いに読み合ったりする活動を通して，文章を推敲する力を伸ばし，豊かな表現力が身に付けられるようにする。
読むこと	平均正答率は，79.6%で市の平均正答率より8ポイント上回っている。 ○物語文において，物語の全体像を具体的に想像する設問では，正答率86.3%で市の平均より6.3ポイント高い。 ○説明文において，文章全体の構成を捉える設問では，正答率88.9%で市の平均より12ポイント高い。	物語文における登場人物の心情を的確に捉えるために，根拠となる叙述や文中の言葉に着目しながら読み，自分の考えをもてるようにする。さらに，友達との意見交流を通して，多様な感じ方や考え方に触れ，自分の読みを広げたり深めたりできるようにする。 説明文において，目的や問いを明確にした学習課題を設定することで，文章全体の構成を捉え，叙述を基に内容を正確に読み取る力を伸ばすようにする。

宇都宮市立泉が丘小学校 第６学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	79.7	70.3	66.4
	農業や水産業	88.6	81.6	75.3
	工業生産	93.4	87.0	77.7
	産業と情報との関わり	93.6	91.0	81.3
	日本の政治	72.9	73.2	75.3
	日本の歴史	68.5	67.4	68.5
観点別	知識・技能	78.4	73.5	72.5
	思考・判断・表現	79.6	77.3	71.5

※参考値は，他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

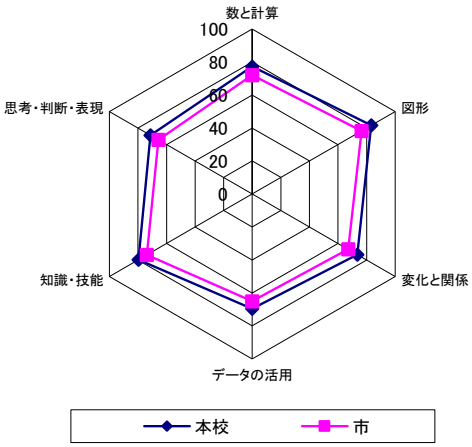
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境などの様子	平均正答率は，79.7%で市の平均正答率より9.4ポイント上回っている。 ○日本の周辺の海洋名や赤道を問う設問，人工林の役割について，市の平均より10ポイント以上上回った。 ●近年日本で起きた自然災害の発生場所についての理解は，市の平均より1.2ポイント上回るものの，正答率は61.5%とやや低い結果だった。	自然災害の発生場所と自然災害の関係について，地図で山地や海や川などの位置を確かめながら地理的要素が関わることを指導していく。また，季節風の特性についても季節や潮の流れ，土地の高低差の影響を受けることを教科書の資料や動画等で具体的に理解する場面を増やす。
農業や水産業	平均正答率は，88.6%で市の平均正答率より7ポイント上回っている。 ○米の品種改良についての理解をもとに，資料から必要な情報を読み取り正しく記述する設問において，市の平均より14ポイントと大きく上回った。	日本の食料生産について米や野菜肉魚類など，生産がさかんな地域について地図で位置を確認したり，生産の様子や流通の仕組みについて資料を見て理解を深めたりできるよう指導する。また，食料自給率や後継者問題など，農水産業における課題を意識できるよう時事の話題に触れながら，公民的資質の向上を図っていく。
工業生産	平均正答率は，93.4%で市の平均正答率より6.4ポンと上回っている。 ○日本の貿易の変化について，資料をもとに表現する設問では，市の平均より8.9ポイント上回っている。	日本の工業生産の主力にある機械工業の自動車産業について，生産の流れや消費者のニーズや社会的要望に合わせて開発されていることを捉え，今後の工業生産にも目を向けられるように指導する。
産業と情報との関わり	平均正答率は，93.6%で市の平均正答率より2.6ポイント上回っている。 ○情報を生かした産業のついて考える問題では，市の平均より3.5ポイント上回った。	デジタル化の進展が生活に大きな影響を及ぼしていることや，有効な情報を正しく活用することが大切であることを，授業や生活の中の様々な具体的な事例から考えさせ，理解を深めさせるように努める。
日本の政治	平均正答率は，72.9%で市の平均正答率より0.3ポイント下回っている。 ○法律ができるまでの流れについて，資料から読み取る問題では，市の平均り9.6ポイント上回った。 ●日本国憲法の原則である基本的人権の尊重について問う設問で，市の平均より6.4ポイント下回った。 ●租税の役割についての理解をもとに判断する問題では，市の平均より5.5ポイント下回った。	自分たちの生活と政治とのつながりを普段の生活場面を通して具体的にしながら，十分な理解が図れるように努める。また，主権者としての自覚がもてるよう，日本国憲法の原則や税金の仕組について授業や出前講座を活用して，繰り返し学べるよう工夫していく。
日本の歴史	平均正答率は，68.5%で市の平均正答率より1.1ポイント上回った。 ○鎌倉幕府の政治の仕組みの理解のもとに，資料を読み取る問題では，市の平均より8.5ポイント上回った。 ●中大兄皇子が行ったことについて問う設問は，市の平均より8.8ポイント下回った。	年表や図表，地図，映像，文章などの資料を活用しながら，歴史的事象を正確に捉えさせていく。また，文化的な面で，現在の生活とつながりがあることを意識させながら，理解を深められるように努める。自分の考えを根拠を示しながら文章で表現する活動を通して，知識の定着を図っていく。

宇都宮市立泉が丘小学校 第６学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	77.3	72.1	74.6
	図形	83.2	76.5	76.1
	変化と関係	73.5	67.1	59.7
	データの活用	69.6	65.0	64.5
観点別	知識・技能	79.6	73.8	74.7
	思考・判断・表現	71.3	65.8	61.9

※参考値は，他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

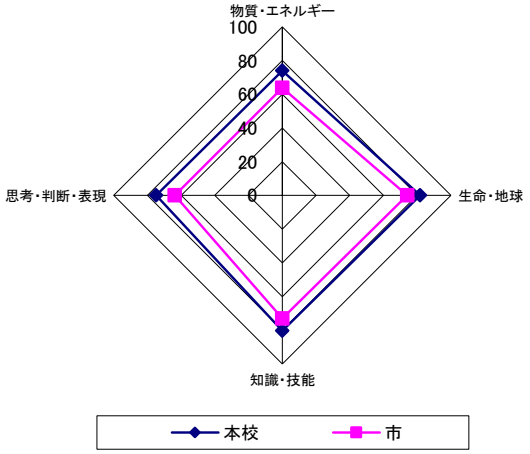
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は，77.3%で市の平均正答率より5.2ポイント高い。 ○図を使って，小数の乗法の文章問題に合った式を立式する問題では，正答率は84.6%で，市の平均より11.2ポイントと大きく上回った。 ○比較量，基準量が分数の場合において，比較量が基準量の何倍かになるかを求める問題では，正答率は55.6%で，市の平均より3.4ポイントと上回ったが，正答率が低かった。	文章を正しく読み取り，式の意味や計算の仕方を理解することができるよう，宿題や朝の学習等を通じて継続して学習に取り組ませていく。また，計算の仕方について，既習の計算などをもとに考えることを大切にした授業を展開していく。
図形	平均正答率は，83.2%で市の平均正答率より6.7ポイント高い。 ○三角形の外角を求める問題では，正答率は79.5%で，市の平均より12.9ポイントと上回った。 ○線対称な図形の対応する角について理解しているか問う問題では，平均正答率は67.5%で，市の平均正答率より16.4ポイント上回った。	図形に関する基礎知識の理解を深めることができるような授業を展開していく。今後も，図形を正確に，多角的に捉えることができるよう指導の充実を図る。
変化と関係	平均正答率は，73.5%で市の平均正答率より6.4ポイント高い。 ○基準量と割合から，比較量を求める問題では，正答率は73.5%で，市の平均より14.8ポイント上回った。 ○単価の異なるものを買ったときの，１単位あたりの値段を求める問題では，正答率は65.8%で，市の平均より9.7ポイントと上回った。	授業で日常生活での場面を取り上げ，図等から必要な情報に着目し，比較して捉える学習活動を多く取り入れていく。自分で考え，根拠をもって説明したり考えを伝え合ったりする活動の充実を図る。
データの活用	平均正答率は，69.6%で市の平均正答率より4.6ポイント高い。 ○度数分布表を完成させる問題では，平均正答率は，93.2%で高く，市の平均正答率より7.5ポイント上回った。 ●ヒストグラムの特徴を基に，データの特徴について説明する問題では，平均正答率は42.7%で，市の平均正答率より7.2ポイント上回ったが，正答率が低かった。	児童の生活に関わる身近な事柄を題材にして，統計的に問題解決をする活動を取り入れた授業を進めていく。データを分類整理し，分析結果を多角的に捉え，活用する力を高めていく指導の充実を図る。

宇都宮市立泉が丘小学校 第６学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	74.0	63.8	61.6
	生命・地球	81.8	74.1	73.3
観点別	知識・技能	80.3	73.0	71.3
	思考・判断・表現	74.8	63.8	62.5

※参考値は，他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	平均正答率は，市の平均正答率より10.2ポイント上回っている。 ○物の溶け方では，正しいろ過の仕方を問う問題の正答率は82.1%で市の平均正答率を19ポイント上回っている。 ●水溶液の性質では，水溶液に溶けているものが気体であることを指摘する問題では，市の平均を10.8ポイント上回っているが，他の問題より正答率は低い。	今後も，正しい手順で安全に実験を行い，正確な実験結果を得るために必要な器具の正しい使い方の理解や実験結果を振り返りまとめる活動を重視していく。また，ノート指導やプリント学習にも取組み，知識・技能の確実な定着を図る。
生命・地球	平均正答率は，市の平均正答率より7.7ポイント上回っている。 ○生物とかんきょうでは，食物連鎖を表す言葉を回答する問題の正答率が高く，市の平均正答率より13.8ポイント上回っている。 ●植物のつくりとはたらきにおいて，ヨウ素液の反応の仕方を答える問題の正答率は85.5%で，市の平均正答率より5.4ポイント下回っている。	今後も実験を中心に考察を進め，学習内容の確実な定着を図る。また，正確な実験結果が得られるように，正しい実験方法の理解を深めるとともに，適切な言葉を使って自分の考えを表現する機会を増やしていく。

宇都宮市立泉が丘小学校
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で，重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
自分の考えを書く活動の充実	自分の考えを文章で表現する機会を増やすことで，書くことへの抵抗感の軽減と習慣化，書く力の育成に努めている。それを基に説明や話し合う機会を設定し，基本的な能力・技能を身に付けさせる言語活動の充実を図っている。	6年生は，全ての教科の記述式設問において市の平均より高い。また，「先生や友だちの話を，最後まできちんと聞いている」の肯定割合は，9割以上の学年が多い。
自分の考えを根拠をもって説明する活動の充実	授業の中で根拠を明確にして自分の考えを表現し合うことを通して，児童同士が学び合い，思考力が深まるように指導している。	「グループなどでの話合いに自分から進んで参加している」の肯定割合は，市の平均を上回っている学年が多い。3年～6年で，「自分の考えを，理由・根拠を挙げながら話すことができる」は，6～7割程度の学年が多い。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

・国・県・市の調査ともに，国語「書くこと」の平均正答率が市と比べて高い。宇都宮市の「書くことキャンペーン」を実施する中で，自分の考えを書く習慣が身に付いてきていると考えられる。次年度も引き続き自分の考えを書いたり，それを基に話し合う活動を行ったりすることで，言語活動の充実を図るとともに，思考力・判断力・表現力の育成に努める。
・話合いに自分から進んで参加している児童が多い一方で，そう感じていない児童も一定数いる。自分で考える時間を確保し，きちんと考えをもった上で少しずつ自分の思いを表現できるよう指導していく。また，互いのよさを生かすことを価値付けし，児童が主体的に文章表現やコミュニケーションをとることができるような指導の工夫を図る。次年度は，考えを根拠を明確にして話すことを児童に意識させ，自らの考えを広げたり，深めたりできるような学び合いになるよう努める。